BUNKA FASHION COLLEGE

# SUMIRE KAI

文化服装学院 すみれ会（同窓会）会報誌

2023
NO 63

1923 – 2023

NEWSLETTER OF SUMIRE-KAI

BUNKA FASHION COLLEGE
SUMIRE KAI
文化服装学院 すみれ会（同窓会） すみれ会報

2023
NO 63

# CONTENTS

01 すみれ会会長あいさつ

02 すみれ会名誉会長インタビュー

04 すみれ会新体制紹介

05 毎日ファッション大賞「特別賞」受賞

06 創立100周年記念イベント

12 卒業生の活躍

15 すみれ会の活動

16 すみれ会奨学生の現在

18 文化服装学院の今
—Shows, Events
—Contests

22 インフォメーション
会計報告／会員手続きについて／すみれ会会員特典／
文化学園服飾博物館 展覧会のお知らせ／
文化服装学院 教員採用情報／古本基金

# すみれ会会長あいさつ

Message

MASAKI SATO

## 文化服装学院こそが担う、
## 突き詰めたものづくりの時代の到来

すみれ会（同窓会）会員のみなさま、文化服装学院創立100周年という特別な日を共に迎えることができたこと、またみなさまの代表として会報誌を通して語り合えることを非常にうれしく思います。

文化服装学院は今から100年前の1923年６月23日、日本で初めての洋裁学校として始まりました。日本ではまだほとんどの家庭で女性が家族の着物を縫っていた時代、日本人に洋服のパターンや作り方を教えるため並木伊三郎氏が同校を開設。それをきっかけに日本中の女性が学校で洋裁を学べるようになり、一般の方が洋服を着るようになりました。また、戦後には女性の社会進出により洋服の製造業が経済成長の中核となり、一般的に店頭で洋服が販売されたことで日本のファッションビジネスが始まりました。まさにその礎を築いたのが文化服装学院だったわけです。

実用的な洋服の時代から、1950 〜 60年代になると日本の女性がファッションを楽しむ時代に、そして1970年代を迎えると日本は独自のファッション文化を生み出し、その日本のクリエーションを持って世界にはばたき、活躍するデザイナーを輩出してきたこと。この100年間、文化服装学院は世界のファッション業界においても大きな役割を果たしてきたと思います。このたび、その日本ファッション業界における貢献が高く評価され、文化学園が第41回毎日ファッション大賞「特別賞」を受賞されました。誠におめでたいことだと存じます。

社会が成熟を迎える中、世界経済やファッション界においても大きな変革の時代です。これだけものがあふれ、ワンクリックで何でも手に入る時代になると、過去の経験や成功体験だけでは戦えません。より多様化した社会では、突き詰めたこだわりのものづくりであったり、今まで以上に個性の強い“オタク”が求められる時代に入ったと考えます。

まさに文化服装学院がこれからのファッション業界においてとても大事な時代が来たのではないでしょうか。

文化服装学院で学ぶ若者たちが社会へと一歩足を踏み出したとき、彼らの技術や感性、彼らが生み出すファッションを次の時代につなげるためにも、新しいファッションビジネス環境をつくるのが先に社会に出ている私たち卒業生の使命ではないでしょうか。

最後にこの文化服装学院が今後、150年、200年とさらに成長し、すばらしい学校になるように、そして文化服装学院、文化服装学院卒業生の方、またそれらを長きにわたり支えてきてくださった方々のさらなるご成長とご多幸を祈念し、あいさつに代えさせていただきます。

**佐藤 正樹 氏**
すみれ会会長
佐藤繊維株式会社
代表取締役

# すみれ会名誉会長インタビュー

Interview

まだまだ予断を許さない状況ではありますが、文化服装学院にも日常が戻ってきました。この節目の年を約3600人の在校生と共に、また厳格な人数制限をすることなく、創立100周年記念イベントを卒業生のみなさまと迎えられたことは、この先も長く記憶に残ることでしょう。

相原 幸子学院長は、この100周年記念イベント成功のためにはやくから動いていたお一人。イベントの総括と文化服装学院が今後目指すべき姿についてお話を伺いました。

――創立100周年記念イベントを振り返ってみると、どのような思いがよみがえりますか？

10年ほど前でしょうか、実は大沼淳前理事長（2020年逝去）がお元気だった頃から、100周年に向けた協議は始まっていました。理事や各校代表、また小杉早苗前学院長も交え、文化学園が目指すべき形（各校の目標在籍学生数や学科編成、カリキュラムなど）について話し合いを続けていたのです。記念イベントについては、2年ほど前から取り組みが始まりました。100年を振り返るだけではなく、さらなる発展を見据えるべく練り続けたイベントです。本当に長丁場でしたね。

6月23日（金）の記念式典、6月24日（土）のすみれ会主催イベントの両日、招待客のみなさまの目を楽しませた創立100周年記念ファッションショーは、これまでの文化服装学院の文化祭I部ファッションショーの作品を再構成したアーカイブショーとして企画されました。文化学園の礎を築いた学院の歴史がショー冒頭の動画でも紹介され、感慨深く思った会員のみなさまも多いと思います。

学院卒業生の名前が途切れることなく刻まれている日本のファッション史をご覧になればおわかりになるように、日本のファッションの歴史は文化服装学院の歴史といっても過言ではありません。コシノヒロコさんを筆頭に、髙田賢三さんやコシノジュンコさんといった花の9期生、山本耀司さん、高橋盾さん、NIGO®さんといったデザイナーの方々はもちろん、その活躍を支えるスタッフ、さらには装うことの楽しさを発信するスタイリストの方々……。文化服装学院で学ばれたことを生かして、あらゆる職種においてファッション業界を盛り上げてきてくださった卒業生の一人ひとりが歴史を受け継ぎ、次世代へと引き継いできました。

1952年以降の文化祭ショー作品とはなりますが、多くの卒業生が在籍時に携わったであろう作品を現役学生の視点で再構築するショーは、学院が積み上げてきた歴史と"これから"を予見させる素晴らしい内容だったと思います。ショーの各パートでは、準備段階から第一線で活躍する卒業生に貴重なアドバイスもいただきました。こうした卒業生と在校生のコラボレーションは、本学だからこそ実現できたのではないでしょうか。

一つだけ心残りといえば、大沼先生や濱田勝宏前理事長（2022年逝去）と共に、この100周年を迎えられなかったことです。本当に楽しみにされていらっしゃったので、残念でなりません。

――すみれ会主催イベントには、全国から700名を超える会員のみなさまにお集まりいただきました。

遠方からお越しいただいた方も多くいらっしゃったと伺っております。レセプションではみなさまが在学時のことや近況報告などで盛り上がっていること、そして楽しんでくださったことが何よりもうれしいひとときでした。

ファッションショー、パーティの運営にご尽力いただいた卒業生のみなさまには、改めてお礼申し上げます。

――100年という記念の年をまたぎ、学院長を務めている意義、役割をどのように考えていらっしゃいますか？

SACHIKO AIHARA

## 創立100周年という節目を経て、これからの時代を牽引する クリエーター育成のための改革のはじまり

かなり前のことですが、大沼先生に「めぐり合わせだね」とおっしゃっていただいたことがあります。この言葉を支えに、この節目の時に学院長であることの幸せをかみ締めつつ、務めを果たすことに邁進するのみです。実は「文化服装学院は世界一になれるかな」という、大沼先生から最後にいただいた言葉が脳裏に焼き付いています。"世界一"とは、服飾専門学校として、グローバルに活躍できる人材を多数輩出していくこと。「ファッションを学ぶなら文化服装学院」だとさらに多くの方に思っていただくために、環境や設備の充実を図ること、学科編成・カリキュラムをアップデートしていくことが職責だと考えます。

また、服づくりの基礎教育を大切にするという文化服装学院の伝統は守りつつも、服の知識だけ、服の技術だけとならないように留意しなければなりません。人のまねではなく、自らのクリエーションを広げられるように。それには日本独自の文化に向き合い、感性を磨くことも大切になってくるでしょう。昨今、つくり手が異文化を表層的なサンプリング対象としたような服については、文化の盗用だとして批判を浴びています。自身のアイデンティティをしっかりと理解した上で創造性を身につける力を鍛え上げることが重要だと考えます。

――さて、日本のファッション業界に多大な功績を残した個人や団体に贈られる第41回(2023年)毎日ファッション大賞・特別賞を文化学園として受賞いたしました。
※詳細は5ページをご覧ください。

100年目のご褒美のようで、とてもうれしく思います。これは文化服装学院として30万人以上、学園全体では40万人以上となる会員のみなさまがファッション業界を盛り立ててきていただいたおかげだと考えています。すみれ会として、これほどの栄誉はございません。みなさま、本当にありがとうございます。

――最後に、共に100周年を迎えたすみれ会員のみなさまへメッセージをお願いします。

文化服装学院は数あるファッションスクールランキングにおいて世界屈指、またアジア№1であるという客観的な評価を得ています。しかしこれにおごることなく、ファッションには何が求められるのかをいち早く察知し、次世代に必要な改革をしていきたいと考えています。

その第一歩として、アパレルのDX化に対応できる3Dモデリストを育成する目的で準備を進めていた「バーチャルファッションコース」が2024年度よりいよいよ始動します。「テクノロジーとクリエイティブの融合で、これまでなかった価値観を創出し、新たな可能性を切り拓く」ための挑戦が始まります。

また文化祭のファッションショーについても、学生たちには協賛企業と将来にわたる関係性を築いてもらうべく、学校はそのきっかけづくりとサポート役にまわります。新たな取り組みも始めていますので、ぜひ足をお運びください。

人間は古来より環境や立場に合わせた服を着ることで社会生活を営んできました。生活の基本的な要件とする衣食住の一角を成すファッションを生み出し、服づくりができる人材はこの先も社会にとって必要不可欠だという強い信念のもと、目の前の学生一人ひとりの学びの要望に応える教育を継続していきたいと思います。

**相原 幸子** 先生
すみれ会名誉会長
文化服装学院学院長

# すみれ会 新体制紹介

Board Members

**任期満了に伴い、新たに3名の方が副会長に就任いたしました。
任期は2023年4月1日より2年間。会員のみなさまに向けた
メッセージとともに、ご紹介させていただきます。**

## 副会長 | 松本 ルキ　株式会社オールファッションアート研究所　代表取締役

アパレルデザイン科卒業後、ロンドンのデザイン企画会社「Global Consultants」のクリエイティブチームに参加。帰国後は、父・松本瑠樹氏が設立したオールファッションアート研究所を軸に、幅広い分野の事業運営に携わっている。2017年、すみれ会 副会長就任。

周年行事では、懐かしい先生方、卒業生のみなさまと再会することができました。
これを機に、より一層、学院と卒業生との連携が深められることを期待しています

## 副会長 | 小篠 ゆま　株式会社ヒロココシノ 代表取締役副社長

服飾研究科卒業後、渡仏。高田賢三氏、その後ミチコロンドンのアシスタントデザイナーとして研鑽を積む。帰国後、自身のブランド「YUMA KOSHINO」を立上げ、映画・舞台の衣装や制服のデザインも手がける。現在はHIROKO KOSHINO ブランドのクリエイティブディレクターとして活躍。

副会長就任にあたり、文化服装学院の素晴らしさを次世代へ伝えることが私の使命であると思っております。母や叔母から私までファッション界で長く活動できているのも、この学院で多くを学び、経験させていただいたからです。世代を超えて文化・感性・情報を共有する交流の機会を持ち、未来へとつなげる活動ができればと願っております

## 副会長 | 飯嶋 久美子　POTESALA主宰　スタイリスト、衣装デザイナー

アパレル技術科卒業。『VOUGUE NIPPON』でのアシスタントを経て、スタイリストとして独立。現在は広告（テレビ、グラフィック、Web）、エディトリアル、CDジャケット、ミュージシャンのMV、舞台、コンサート、映画など多岐にわたり活躍している。

100年という歴史を大切にしながらもファッションスクールとして
新しい挑戦をサポートできたらいいなあと思っています

## 副会長 | 門井 緑　文化学園理事、文化服装学院 学院長補佐

服飾専攻科技術専攻卒業後、学院教員に。服装造形の指導に尽力し、2018年には服飾専門課程グループ長就任。パターンメーキング技術能力検定の委員も長く務め、服飾教育従事者や業界全体の技術向上に貢献した。令和4年度 服飾教育顕彰功労章を受章。

卒業生のみなさん、すみれ会はみなさんの会です。一緒に盛り上げていきましょう

## 文化服装学院グループ長 | 吉村 香、早渕 千加子、朴澤 明子、野原 美香、朝日 真

## スーパーバイザー | 花里 裕　株式会社サーヴォ グレーダー

服飾専攻科技術専攻卒業。株式会社オンワード樫山にグレーダーとして入社し、株式会社サーヴォに。ユニフォームウェア全般のグレーデイングを担当する。2017年より、すみれ会監査員を務める。

スーパーバイザーとして卒業生の意見を取り入れ、すみれ会の活動に生かせていければと思います。すみれ会Instagramで、すみれ会関連情報や卒業生情報の紹介をしていくので、フォローのほう、よろしくお願いします

すみれ会Instagram

# 毎日ファッション大賞
# 「特別賞」受賞

Award

## 文化学園として、
## 第41回（2023年）毎日ファッション大賞「特別賞」を受賞！

第一報が届いたのは、8月28日のことです。

「その活動がファッション業界に寄与するところが大であったこと」に対し贈られる毎日ファッション大賞「特別賞」を、文化学園として受賞することとなりました。

「文化学園が日本のファッション業界、シーンに与えた影響ははかりしれない」と、選考委員の満場一致で決定したとのことです。多くのデザイナーやファッション関係者を輩出し、長年ファッション業界にもたらした功績が選考理由で挙げられたのは、ブランドを率いるデザイナーはもちろん、ファッション業界の川上から川下まで、あらゆる場所で活躍されている卒業生一人ひとりのお力があったからこそです。

みなさまにとっても、この毎日ファッション大賞「特別賞」を創立100周年という記念すべき年に受賞できたことは感慨深いものと思います。

文化服装学院はこれまでの伝統を守りつつも、未来のために必要な改革を行います。そしてファッションを学ぶために日本全国、また世界中から集まった学生たちの学びに応える質の高い服飾教育を継続してまいります。

写真提供：毎日新聞社

◀ 毎日ファッション大賞 公式サイト

https://macs.mainichi.co.jp/fashion/

**第41回（2023年）毎日ファッション大賞 受賞者** ※敬称略

大賞　黒河内真衣子（Mame Kurogouchiデザイナー）

新人賞・資生堂奨励賞　川崎和也
（Synflux株式会社代表取締役CEO、スペキュラティヴ・ファッションデザイナー）

鯨岡阿美子賞　栗野宏文（ユナイテッドアローズ上級顧問）

話題賞　グランドセイコー、のん（俳優、アーティスト）

特別賞　文化学園

毎日新聞社主催　経済産業省後援

# 創立100周年記念イベント

100th Anniversary

**2年以上前から進められてきた文化学園創立100周年記念イベントは、卒業生が旧交を温める場所としてのみならず、行政関係者や各界の著名人の方々に、文化学園の「これまで」と「これから」を知っていただく機会ともなりました。ここではできるだけたくさんの写真を使いながら、2日間の創立100周年関連イベントを振り返ります。**

## CEREMONY & EXHIBITION

### 学園全体が祝賀ムードに。
### 創立100周年記念式典や展示の数々

梅雨時期ながら、晴れ渡った創立記念日。6月23日の文化学園創立100周年記念式典当日には、1000名を超える方にお集まりいただきました。ファッション・教育関係者や卒業生はもちろん、旧教職員のみなさまも多数足をお運びいただき、久しぶりに見る元気なお顔に、迎える側も自然と笑顔があふれていたのが印象的です。

式典では5名の方の祝辞に加え、小池百合子東京都知事も駆けつけていただき、東京がめざす姿の中にあるファッション分野への期待が述べられました。

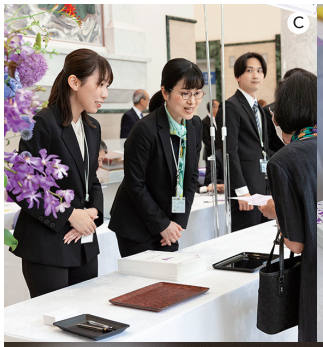
またコシノジュンコさんが記念講演に登壇。ファッションという分野にとどまらず、表現の領域を押し広げてきたご自身の軌跡や文化服装学院での日々を語ってくださったことは、会員のみなさまにとってもコンテストや課題に熱中したBUNKA生時代を思い出したに違いありません。

また式典をはさんで2回行われた創立100周年記念ファッションショーでは、文化服装学院の文化祭I部（昼間部）の作品を、学院の在校生が再構成して発表（詳細は8、9ページ参照）。日本の服飾教育の先駆者である文化服装学院が、ファッション業界における強い存在感を改めて示した一日となりました。

### 式典

数多くの方々にお集まりいただき、開催された創立100周年記念式典。会場となった20階のホールには、スクールカラーに彩られたステージを設置。各界著名人の方が次々と登壇された。

A


C

D

E

F

G

H

A. 清木孝悦理事長は式辞に加え、文化学園のビジョンについての講演も。B. コシノジュンコさんの特別講演（聞き手：文化出版局『装苑』編集長・児島幹規）では、花の9期生の写真も披露。C.D. たくさんの祝花に囲まれた総合受付。プログラムもすみれ色に。E. 満席となった式典会場。F.G. 小池百合子東京都知事。清木理事長との握手の瞬間も。H. 文化服装学院マーチャンダイジング科卒業生の株式会社TSIホールディングス 代表取締役社長 下地毅様より来賓祝辞を賜った。その他、文部科学省 総合教育政策局長 藤江陽子様、学校法人中部大学 総長 家泰弘様、松竹株式会社 代表取締役副社長 武中雅人様、渋谷区長 長谷部健様（司会代読）からのお言葉も。

## すみれ色の校舎

式典プログラムのほか、サイン類もスクールカラーで。各所に飾られたフラワーアレンジメントももちろんパープルでそろえられた。

## コラボレーション作品展示

現在進行中の髙島屋との産学連携プロジェクト。再生カシミアによるサステナブルな提案を披露。

## デザイナー作品展「NEXT CREATORS COLLECTION」

文化学園の各校卒業後、パリ・コレクションに参加するなど、現在目覚ましい活躍をみせる卒業生9名の作品を展示。

参加ブランド（学院卒業生のみ抜粋）：TAAKK 森川 拓野さん（アパレルデザイン科卒業）、FUMITO GANRYU 丸龍 文人さん（アパレルデザイン科卒業、文化ファッションビジネススクール修了）、CINOH 茅野 誉之さん（アパレルデザイン科卒業、文化ファッションビジネススクール修了）、rurumu: 東 佳苗さん（ニットデザイン科卒業）、YOHEI OHNO ヨウヘイ オオノさん（服飾専攻科デザイン専攻卒業）、IHNN インチソンさん（服装科卒業、文化ファッション大学院大学修了）

## 学生作品展示

総合受付場所となったエントランスでは、各校在校生の作品がお出迎え。

## 100周年記念ミニ展示「思い出の校舎」

図書館では、かつてのシンボル“円型校舎”にフォーカスした書籍や雑誌の展示コーナーを設置。

## 「日本服飾の美」展

服飾博物館では宮廷装束や三井家伝来の打掛など、日本服飾の優品を展示。過去の展覧会ポスターも壁一面に。

## 「装苑賞」作品展示

甲州街道に面したA館とB館前ショーウィンドーには、過去の装苑賞受賞作品が並んだ。

記念式典をはさんで2回開催された100周年記念ショー。多数の招待客のみなさまに、学院の未来を感じていただけたはず。

文化学園
創立100周年記念サイト

文化服装学院
創立100周年特設サイト

# FASHION SHOW

## 過去の文化祭ショー作品を
## 在校生がリスタイリング

これまで大切に保管されてきた文化祭ファッションショー作品(1952年以降)を使用したアーカイブショー「pulse･･･(パルス+)脈拍、鼓動、意向」。スタイリングや演出などの各パートにおいて、ファッション業界で活躍する卒業生と在校生がディスカッションをしながら進め、最終的にリスタイリングされた112体が発表されました。

ショーの動画はもちろん、メイキング動画も公開しておりますので、ぜひご覧ください。もしかすると、会員のみなさんが学生時代に制作した、着用したといったショー作品が登場しているかもしれません。

**スタイリング監修:**
相澤 樹(スタイリスト/スタイリスト科卒業)

**ヘアメイク監修:**
橘 房図
(ヘア&メークアップアーティスト/ファッションディレクター専攻卒業)

**映像ディレクター:**
岩野一真
(ディレクター/ファッションビジネス科卒業)

**ショーディレクションサポート:**
秋元 剛
(プロデューサー/服飾専攻科デザイン専攻卒業)
李 在龍
(3Dファッションスペシャリスト/ファッション高度専門士科卒業)

※科名は卒業時のものとなります。

創立100周年記念
ファッションショー「pulse」▶

創立100周年記念
ショーメイキング動画▶

NHK公式サイト
「令和の若者が見た“日本のファッション”」▶

在校生が制作したオリジナルの楽曲と
サックスの生演奏がショーを盛り上げた

A

B

A.ショースタッフが着用したTシャツをデザインしていただいたコシノジュンコさんと企画チームのメンバー
B.相澤樹さんはスタイリング監修で尽力。スタイリングチームの学生と記念撮影

フィナーレは全モデルが登場しただけでなく、
フィッターがステージを駆け抜けた

# RECEPTION

## 会場は思い出の学食！ すみれ色の同窓会レセプション

創立記念日の翌日、6月24日（土）はすみれ会主催イベントとして、100周年記念ファッションショーとレセプションパーティが行われました。学食はミラーボールがきらめく会場に様変わりし、すみれ会会員と招待客のみなさまをお迎え。スクールカラーのすみれ色にこだわった設えに加え、ドリンクやフードもすみれ色！ 驚かれた方も多いと聞き及んでいます。

さて、レセプションは佐藤正樹会長のごあいさつと相原幸子名誉会長による乾杯でスタート。久しぶりにお会いする恩師、共に課題に取り組んだ同級生、憧れの先輩、かわいい後輩……。1時間半ほどではありましたが、旧交を温めるひとときとなったようです。

創立100周年という節目。このレセプションをきっかけに、文化服装学院の卒業生同士の絆がさらに深まり、新たなつながりが生まれていくことでしょう。

1

2

3

4

5

司会：ミーシャ・ジャネット
（ファッションディレクター、ジャーナリスト、ブロガー／スタイリスト科卒業）

DJ：馬渡圭太
（LITTLEBIGデザイナー／スタイリスト科卒業）

大石幸平
（スタイリスト／スタイリスト科卒業）

※科名は卒業時のものとなります。

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1.佐藤正樹すみれ会会長よりごあいさつ 2.相原幸子学院長、佐藤正樹すみれ会会長、小杉早苗元学院長の3ショット 3.乾杯のご発声は、相原幸子学院長 4.津森千里さん（TSUMORI CHISATOデザイナー）とコシノジュンコさん（JUNKO KOSHINOデザイナー） 5.司会としてパーティを盛り上げてくれたミーシャ・ジャネットさん 6.DJを担当していただいた大石幸平さんと馬渡圭太さん 7.すみれ色の設え 8.宮浦晋哉さん（糸編 代表取締役）、飯尾開毅さん（kaikiデザイナー）、小池俊介さん（デザイナー）、徳永啓太さん（ライター） 9.PELIさん（PAMEO POSEデザイナー） 10.TSUMIREさんご一家（THE IVY TOKYOデザイナー） 11.足立美智子先生、SHOKOさん（S for Shokoデザイナー、アーティスト）、相原幸子学院長、高見澤ふみ先生 12.学食いっぱいのひとだかり 13.カトーショーヘーさん（HEIHEIデザイナー） 14.野原美香先生、二宮ちえさん（スタイリスト）、夏目幸恵先生 15.曽我部真人さん、大森伃佑子さん（スタイリスト）、曽我部美加さん（eb.a.gosデザイナー）

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

16.鈴木洋子先生、李明倫さん、谷津南帆さん、テイ ゲンジュさん 17.天野太陽さん（フォトグラファー、アーティスト） 18.鈴木ゆうみさん（ARIAデザイナー） 19.長崎高志さん、菅井正子先生、原田昴さん 20.川井佐江子先生、チョウ シンミョウさん、本田桃子先生 21.大西智裕さんと高野公三子さん（共にACROSS編集室）、ミーシャ・ジャネットさん、寺澤真理さん（三越伊勢丹） 22.三好和美さん、岡本敬子さん（服飾ディレクター）、戸野塚かおるさん（スタイリスト）、渡邊由貴さん（スタイリスト） 23.佐藤正樹会長、DJブースに。24.宮川里絵さん（フリーニットデザイナー） 25.佐藤藍衣先生、岡里咲先生、薫森三義先生、門元伸子先生 26.此村公子先生と片山大成さん 27.コシノジュンコさん 28.小篠ゆまさん 29.右は田中和安さん（ユナイテッドアローズ取締役兼常務執行役員CMO） 30.Tsumireさんと森本慧先生 31.沖田夏子さん（M inc.PR） 32.ヴィヴィアーノ・スーさん（VIVIANOデザイナー） 33.秋元剛さん（秋元取締役） 34.安武俊宏さん（BEAMSプレス）、中野麗子先生、坂本圭祥さん 35.すみれ色のフィンガーフード 36.柳沼重文さん、飯嶋久美子さん（スタイリスト）、青木良文さん（フィガロ編集部エディター） 37.小杉早苗元学院長と話し込む太田繁先生 38.松本ルキすみれ会副会長　※特に注記がない場合は、お名前はすべて左から右の順番です。※お名前・所属等はイベント参加申し込みフォームに入力していただいたものを参考にしています。

# 卒業生の活躍

Alumni Success

**みなさんもここ数年のコロナ禍の停滞を経て、社会が動きだしたことを実感されていると思います。文化服装学院の卒業生も同じです。新たな一歩を踏み出し始めた仲間、変わらぬ活躍を見せる同窓生。貴重なお時間をいただき、学生時代のことや現在のお仕事についてお話を伺いました。**

スタイリストの醍醐味は毎日、違う日々を送れることという村井さん。日々のショッピングも、ストリートスナップを見ることもインプットの時間

## 村井 素良

**（スタイリスト）**

**HP** https://soramurai.com
**Instagram** @soramurai___

バンドではギター担当だった野村さん。ギターケースはいつかつくりたいと思っているアイテムの一つだとか

## PACKEN
## 野村 歩

**HP** https://packen2020.stores.jp/
https://linktr.ee/packen
**Instagram** @packen2020

model:DAIYU AKIMOTO(BAZOOKAmgmt)
photographer:HAYATO SAKURAI
hair:HIROKO MATSUO
make:NAOMI NISHIDA(KiKi.inc.)

海外の雑誌に掲載された作品より

ドラムスティックがぴたりと収まるサイズ感

カラーレンジが幅広いのもPACKENの魅力

### “文化は、チームで一つのものを完成させる楽しさに気づいた場所”

村井素良さんがスタイリストとしてやっていく覚悟を決めたのは、ファッション流通科1年生の夏休み。スタイリストコースに進むと、今でも鮮明に覚えているという現場を経験しました。

「『HIGH&LOW THE MOVIE』という映画で、100人程度のキャストの衣装の準備から撮影時のケア、返却まですべてを行いました。常に周りに気を配りつつ、タイトな撮影スケジュールに合わせた着せつけ順や服の見せ方（汚しも含む）など、映画初現場であれほどの規模感の作品に携われた体験は忘れられません」

2020年に独立。現在では、『GQ JAPAN』『BRUTUS』といった雑誌やCM、カタログなど幅広いフィールドで活躍されています。

「スタイリングでは最終的に商品を手に取る消費者を意識しています。さらにクライアントの求めるものと自己表現の塩梅。難しくはありますが、その微差によるビジュアルの変化を楽しんでいます。

文化はチームで一つのものを完成させる楽しさに気づいた場所。クラスメートはもちろん、新入生歓迎ショーや文化祭、卒業制作ショーがきっかけで出会った友人は何より大切にしています。今でも付き合いのある人がたくさんいるし、お世話になりっぱなしです」

### “とにかく1回つくってみよう”、そうすることで見えてくるものがある

もともとものづくりが好きだったものの、高校卒業後は中学生の頃の夢だった美容師になるため美容学校に進んだ野村歩さん。

「贅沢な話ですが、美容師は自分に向いていないと確心が持てた後（免許は取得しました！）、バッグデザイン科に入学しました」

卒業後は2社の鞄メーカーに計13年勤務。先輩に言われた“とにかく一回つくってみよう”という言葉が強く印象に残っているとのこと。

「頭の中や紙の上ではまったく進まなかったことが、下手でもなんでも目に見える形にすることで、急に動き出すことがありました」

まずは美容師免許を取得された野村さんのことです。その“やってみる”精神は、生来の気質かもしれません。2022年10月から自身のブランド PACKEN（パッケン）を本格的にスタートさせました。

「バンド経験を生かして、ドラムスティックケースを中心に製作しています。バッグと構造が似ているので取り組みやすかったこともありますが、ドラマーの方の抱える悩み、ストレス、くせ、性格……そうしたことを掘り下げていくことでアイデアが湧いてくるのが楽しいですね。東京・世田谷区用賀の工房兼ショップ（予約制）では、カスタムやセミオーダーの相談にも対応しています。ぜひいらしてください」

学生時代に学んだ染色やプリントについての知識がとても役に立っているという青山さん

# TOLIGHT
## 青山 明生

**HP** https://www.tolight-official.com/
**Online Store** https://tolight.official.ec/
**Instagram** @tolight_official

### 明るい方を向ける、服づくりを自由に絵を描くように

小学生の頃の夏休みには毎日、服や帽子のデザインを考えていたという青山明生さん。当時できたばかりの六本木ヒルズに父親と出かけ、市場調査をしていたことがファッションを意識した一番古い思い出だそう。

「アパレルデザイン科を卒業して、MUVEILを運営する株式会社FRIENDSに勤務しました。3年目を迎えた頃には、自分のブランドについて具体的にイメージするようになり、2021年春夏シーズンから本格的にスタートを切りました」

ブランド名のTOLIGHT（トライト）には、「明るい方を向く」という意味を込めたとのこと。ちょうど世界全体がパンデミックに襲われ、個人の思考さえ停滞していた時期に重なります。

「ハンドペイントを施した一点ものの制作がメインとなりますが、コロナ禍で初開催したイベントではウィンドーペイントや花も展示するなどして、ブランドの世界観を複合的に見せました。結果、幅広い方にブランドを知っていただくこととなり、コラボレーションのお誘いを受けるなどたくさんの方とのつながりが生まれました」

ポジティブな気持ちで描かれるボタニカルフラワーに惹かれる方は多いでしょう。11月初旬にはジャーナルスタンダードとのコラボレーションコレクションが全国店舗で発売予定とのこと。この機会に、ぜひ直接ご覧ください。

レースとハンドペイントを組み合わせたシャツは、TOLIGHTの代表的なアイテム

印象に残っているというライフスタイルショップLIVING MOTIFでの初イベント。こちらはそのウィンドーペイント

日本でも縫製のデモンストレーションを見てもらえる企画を考えているという吉田さん。詳細はインスタグラムにて

# 吉田 多江
## （デザイナー、ビスポークテイラー）

**Instagram** @taylore.work

### 世界の人々へ向けた縫製プロジェクトを展開

「企業デザイナーをしていた頃のことですが、デザイン提案してヒットしたアイテムの一つを、姉が知らずに購入したことがあります。タレントの方に着ていただけること以上に、身近な人に気に入ってもらえるって本当にうれしいことですよね」

吉田多江さんはアパレルデザイン科を卒業。企業デザイナーとしてキャリアを重ねると同時に、エコとエシカルをテーマにしたアートグッズブランドでも活動していました。その経験から大量に生産し廃棄されるファッションの背景や現状に疑問を持ち、ニューヨークへの語学留学という形でキャリアをリセット。

「語学を学びつつも、やはりファッションへの好奇心は尽きません。ここでは古着やビンテージの着こなしも多種多様。さらに0から新しいものをつくらなくても、既存のものにひと手間加えるだけでいい……そんな思いから、リペア・リメイク・カスタムに重点を置いた縫製プロジェクトを始動させました。するとテーラーアーティストのラーズ・ノード氏と知り合い、ミシンと洋裁キットを持ち歩き、あらゆる現場（雑誌やCMの撮影現場、セレブリティのプライベートイベントなど）で服を手作業でつくり上げていくという、新しいテーラーの形を見せてもらいました。目の前の人に向けて、その人に合わせた服を提供する。この出会いによって、自分の縫製プロジェクトの可能性をより強く信じられるようになりました。

もちろん、このプロジェクトを支えてくれているのは、文化服装学院で学んだ技術（別格です！）。卒業してしばらくたちますが、今でも社会に通用する技術を教えてくださった先生方にはとても感謝しています」

ダメージジャケットを解体し、新たに2枚のジャケットに仕上げた

「ポートレートは恥ずかしいので、猫を抱いている写真で……」

## 石見 壮留

### （doublet. 生産管理）

**HP** https://doublet-jp.com
**Instagram** @__doublet__

### “どうやったらできるのか、を考え続けられる人でありたい”

doublet.（ダブレット）というブランドをご存知でしょうか？「違和感のある日常着」をコンセプトとする大人気ブランドですが、ランウェイともなると、かなり突き抜けたデザインも多いのが特徴。その“違和感”を服・商品として成立させるパタンナー、生産管理を担っているのが、メンズデザインコースを卒業した石見さんです。実は大学で、法律を学んでいたという経歴の持ち主。

「大学3年生の頃、就職活動に向けて自己分析を深めていくうちに、自分が本当に興味のあるのは服に関わる仕事、さらには服をつくる仕事だと。当時のファッションスクールランキングで世界2位だったことと、大学の友人がダブルスクールで文化の夜間部に通っていて、その卒業制作ショーに強い刺激を受けたことで文化への入学を決めました」

4歳年下の同級生とうまくやっていけるかと心配もあったようですが、今ではその同級生たちとの何げない学校生活が一番の思い出とのことです。

「ファッション工科基礎科の頃の先生は、入学したての僕たちにでも、つくりたい服をどうやったらつくれるかを前向きに考えてくれました。できない理由を挙げるのではなく、今、持っているものでどうしたらできるかを考える姿勢を行動で示してくれました。

現在では、服は一人ではつくれないということを肝に命じています。縫製工場、生地屋、加工屋、糸屋に、デザイナー、パタンナーなど、そこには上も下もないこと。みんなで一着をつくっているという意識を持ちながら、責任あるものづくりを続けていきたいと思っています」

2022SSシーズンのカットソー類はほぼすべてのパターンを担当。コレクションとして並べたとき、深い達成感を得られたという

現在は生産管理がメインの業務に。2023SSシーズンも大きな話題となったが、生産管理泣かせ（？）なデザインが多数登場した

すみれパーティにも参加していただいた天野さん

## 天野 太陽

### （アーティスト、フォトグラファー）

**Instagram** @taiyou_amano

### 身につけた服づくりの知識で表現するアーティスト

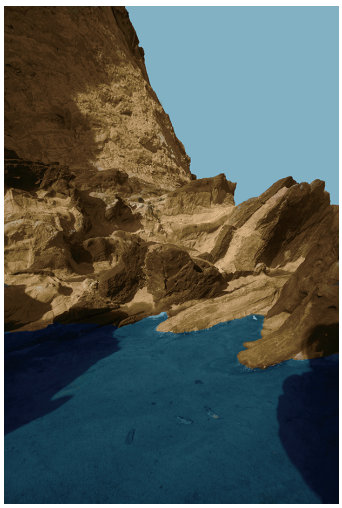
天野さんは2022年3月にアパレルデザイン科を卒業しました。ついこないだ、と口を衝いて出てきそうですが、既に写真展を開催。次回の展覧会プロジェクトもすでに進行中という、注目のアーティストです。

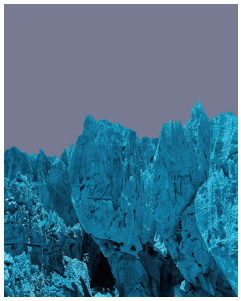
同科でしっかりと服づくり、デザインを学んだわけですが、職業としては主に写真をメディウムとするアーティストとしてスタートを切りました。

「大抵の服は生活用品の一部で、着られないといけないし、売れないといけない。けれど自分がつくりたい服は着られないもの、売れないもの。服を見たり、買ったり、着たりするのは好きでも、私は服をつくりたいのではなく、表現という行為をしたかったと文化で服づくりを学ぶ中で気づきました。そうして高校生の頃から表現のツールとしていた写真に傾倒していったというのが今に至る経緯です」

フォトグラファーになるとわかっている状態で、もし過去に戻れるとして、その時は写真学校やスタジオ勤務を選んだでしょうかと伺うと、「文化ですね」と即答。

「写真を学びたいとは思いません。ファッションは、必然的に人のフィジカルについて考えますよね？私の作品は自然の風景を切り取っていながら、どこか無機質です。でも視覚的には一定のアルゴリズムを持ち、自然の摂理の元に作られています。それは私たちの身体とも共通すること。作品にオブジェ的な要素が多分にあるのは、身体性と結びつきの強いファッションを学んだことが大きく影響していると思います」





個展「If you look closely at that mountain, isn't it jagged?（何かあの山、よく見るとギザギザしてない？でも遠くから見てもギザギザしてるね）」で展示した作品

# すみれ会の活動

Sumire's Activities

## すみれ会関連イベントのご案内

本年度の文化祭は、11月2日(木)～ 11月4日(土)に開催されます。会員のみなさまが休憩所としてご利用できる「すみれサロン」を11月2日(木)から4日(土)の10時～17時半(4日は16時まで)で開室しております。飲み物とお菓子をご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りください。なお、すみれ総会と同窓会パーティは開催いたしません。

また文化祭ファッションショーの観覧特別優先チケットは、C館エントランス受付にて、すみれ会会員証のご提示でお渡しいたします。この特別優先チケットは数に限りがあるため、配布終了となる場合もございますことご了承ください。

文化祭の詳細(ショー開催時間、各種イベント、展示など)は、決まり次第に文化服装学院公式サイトにてご案内させていただきます。

## 「すみれ会 海外留学サポート奨学金」制度スタート

創立100周年に際し、グローバルに活躍する意志を持った学生を対象に、卒業後のフィールドを海外へと広げる第一歩を支援する「海外留学サポート奨学金」制度を設立しました。2022年度より運営を開始し、第1回奨学生として大槻 嘉己さん(2022年度 服飾専攻科 オートクチュール専攻卒業)が選出されました。大槻さんは、現在留学に向けての準備中。出発できる日を心待ちにされています。

また、2023年度からは応募資格を卒業生にも拡大。応募期間は11月20日(月)～ 12月12日(火)となっておりますので、詳しくは、すみれ会ウェブサイトをご覧ください。

## すみれ会奨学金

「文化服装学院すみれ会奨学金制度」は、将来のファッション業界で活躍が期待される準会員の支援を目的とし、2016年度(平成28年度)より施行しております。会員の皆さまからのご寄付も一部活用させていただいている同制度。2023年度においても成績優秀な在学生4名が選抜され、日々の学業に生かされていることをご報告いたします。また、4月6日(木)に開催された入学式に合わせ、壇上においての授与式を執り行いました。その晴れやかな姿は、新入生の目にもしっかりと焼きついたはずです。

**[2023年度すみれ会奨学金受給者]**

ファッション工科専門課程　ファッション高度専門士科4年
安間 彰太さん

ファッション工科専門課程　ファッション高度専門士科4年
堀内 華乃さん

ファッション工科専門課程　ファッション流通高度専門士科4年
湯浅 琴音さん

ファッション流通専門課程　ファッション流通専攻科
石井 あかねさん

## 寄付のお願い

すみれ会は会費のみで運営しています。円滑な運営と将来のファッション界を担う準会員の支援のため、会員のみなさまにはすみれ会の活動をご理解いただき、寄付金をお願いいたしたく存じます。

**■寄付金の募集要項**

**[寄付金の使途]**
学業優秀で今後の活躍が期待される在校生へ、授業料の一部を給付

**[寄付金対象者]**
すみれ会員、法人・企業

**[寄付金の額]**
1口1000円より3口以上
なお、金額の多寡にかかわらず、ありがたく承ります。※控除対象外

**[募金期間]**
募金期間は定めておりません。継続的に募金活動を行っております。

**[申込み方法]**
郵便振替にてお振込みください。
■振込先:ゆうちょ銀行振替口座
■口座記号番号:00150-7-766997
■口座名称(漢字):すみれ会寄付金口
■口座名称(カナ):スミレカイキフキングチ

※ゆうちょ銀行以外から振り込まれる場合は下記となります。
■ゆうちょ銀行019(ゼロイチキュウ)支店
■当座預金 口座番号0766997

**[お問合せ先]**
文化服装学院すみれ会
TEL:03-3299-2073
https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp

すみれ会ウェブサイト ▼

文化服装学院公式サイト ▼

# すみれ会奨学生の現在

Scholarship Students NOW

**2016年に創設されたすみれ会奨学金。これまで奨学生制度を受けた卒業生が現在どのような活躍を見せているのかと気になっている方もいらっしゃるでしょう。昨年に続き、3名の方に当時のこと、今のお仕事についてお話を伺いました。**



## 田中 優さん

**（2020年 ファッション高度専門士科卒業）**

### “文化の学びすべてが役立っている”と断言する、注目のオートクチュールデザイナー

学生時代から意欲的に衣装制作を手がけ、雑誌や海外メディアでも取り上げられてきた田中優さん。『装苑』2023年9月号でも複数ページで作品が取り上げられ、知る人ぞ知る存在から、より大きな話題を集めることになりそうな筆頭クリエーターです。

田中さんはオートクチュールというフィールドで活動しています。「パリ・コレクションにも参加するオートクチュールブランドのプロダクションメンバーであると同時に、個人として衣装制作やアーティストとのコラボレーションにも積極的に参加しています。自分の作品づくりで大切にしていることは、“日本の伝統文化やその技法”。それは文化服装学院在籍中から一貫して変わりませんし、世界に発信していきたいと思っています」

絢爛豪華な刺繍やモチーフ・色使いに目を奪われますが、にじみやモチーフの間の取り方などは日本画や屏風絵、浮世絵といった日本美術に通じるもの。何より、モードとして成立しうる絶対的な美しさを兼ね備えています。

「実は、学生時代は学費捻出のためにずっとアルバイトしていました。ファッション高度専門士科4年次のメインカリキュラムであるプライベートコレクション（通称マイコレ）には力も入るけれど、制作費もかかる。そんなタイミングでのすみれ会奨学金は、体力的にも、精神的にも本当に救われました」

どんな職種にも対応できるようなスキルが身につくファッション高度専門士科での広範囲な学びのおかげで、現在籍を置くブランドの中でできる仕事も多く、信頼関係を築く一助となっているとのこと。文化服装学院での学び、そのすべてが今の田中さんを支えていると思うと、会員のみなさまも我が事のようにうれしいはず。ぜひ田中さんの今後にご注目ください。

**Instagram** @you_tanaka_lr

A. 女性デザイナーは、自身が似合う服をつくるともいわれますが、田中さんを見ていると納得
B. マイコレの作品から
C. 豪奢なドレスは、もちろんオートクチュールの1点物

## 吉井 凛さん

**(2020年グローバルビジネスデザイン科*卒業)**

*現ファッション流通高度専門士科

### “先生の紹介に始まった縁。職業の選択肢が拡がったことに感謝しています”

この8月、Webマーケターとして株式会社IKKANに転職したばかりの吉井凛さん。

「3年次の後半、先生の紹介でインターンシップをさせていただいた会社の方と転職活動をしている際に会うことがあり、現在の会社代表を直接ご紹介いただいたのがきっかけです。前職は幅広い商材を扱っていたためアパレル関連ではありませんでしたが、現在はアパレル商材が大半。前職の経験をいかしたWeb広告運用やEC管理、メルマガ配信など幅広い領域での業務を行なっています。

グローバルビジネスデザイン科は他科にはない授業も多いのですが、Webマーケティングの授業はいまの仕事に直結していますね。服飾専門学校からの就職は、流通系だと販売員から始めてプレスやバイヤーを目指す道しか想像できませんでした。こういう道もあるんだと、自分に振り幅を持たせてくれたことに感謝しています」

吉井さんはすみれ会奨学金のおかげで、アルバイトに追われることがなくなり、焦らず期限内に課題提出できるようになったとか。そして、学業と遊びとアルバイト全てが充実したものになったそう。

「卒業時には皆勤賞に加えて優等賞もいただきました。先生方のお力はもちろんですが、これも奨学金をいただいた影響だと思います」

株式会社IKKAN
HP http://www.ikkaninc.jp/

A.B. グローバルファッションビジネス科(現ファッション流通高度専門士科)のみが実施しているニューヨーク研修。その時の思い出の写真

A. 社会人2年目の鈴木さん B. ファッションディレクター山口壮大さんと有志学生のプロジェクトCULTURAL LAB.にも参加。2年次には、環境省と文部科学省が設立したESD(Education for Sustainable Development=持続可能なための開発)活動を支援する「ESD活動支援センター」が主催する全国フォーラムのポスターを制作した C. シーズンビジュアル撮影時のひとコマ D. コペンハーゲン出張は、担当ブランド「leinwände」のファッションウィーク参加に合わせて

## 鈴木 明日香さん

**(2021年グローバルビジネスデザイン科*卒業)**

*現ファッション流通高度専門士科

### “忙しくても自分を大切にし、タスクをこなしつづける方法を学びました”

鈴木明日香さんは、複数のドメスティックブランドを運営する株式会社IMCFのアソシエートブランドマネージャー。ルックビジュアルやEC着用画像などの撮影手配、卸先への営業、PR関連業務のほか、各種英訳作業やコンテンツのライティングなど、業務は多岐にわたります。

「商業的にも文化的にもよい服を届けることで、服を着ることの価値を高めたいと思っていました。在学中のインターンを通して、日本人デザイナーが持続可能な新素材を既存品の代用ではなく、新しい服づくりのために採用することで、現代の文化的価値のある服を生み出していく姿に感動しました。彼らと一緒に働きたいと思い、デザイナーと哲学を共有しインキュベートする現在の会社で働くことに。

きっかけとなったインターン期間中はアルバイトもほぼできず、昼食代などの捻出が難しいときもありました。すみれ会奨学金の給付により、困ったときに自分を助けられるお金を持てたことが本当にありがたかったです。

文化服装学院では服づくりの知識、デザイン論や文化人類学、国際情勢とファッションの関係性についての学び、さらに時間に追われることへの耐性がつけられたことなどがとても役立っています。デザイナーのビジョンを理解し、メディアやファンへどう伝えるべきかと考えるときの大きなよりどころとなっています」

個人アカウント
Instagram / Threads @a1s1u1k9asuzuki

株式会社IMCF
HP https://www.imcf-international.com

**完全にコロナ前と同じとはいえないものの、運営方法などの工夫により、学校生活は通常の姿に戻りつつあります。2022年度から2023年度前半に開催されたショーやコラボレーション、コンテストなどから文化服装学院の今をご紹介します。**

# Shows, Events

## 文化祭Ⅰ部ファッションショー「REVE」

2020年度の中止、2021年度はオンライン文化祭を経て、2022年度の文化祭は通常開催に近いものとなりました。特にファッションショーは3年ぶりに有観客となり、学生たちの意欲もこれまで以上に感じられるものとなりました。

Ⅰ部のショーのテーマは「REVE（レーヴ）」。復活を意味するRevivalと前夜祭を意味するEveからの造語で、100周年を目前に、復活したショーを多くの人に見てもらいたいという思いが込められています。全6シーン、計58体を披露。企画・デザインから制作はもちろんのこと、演出、照明、映像・音響、モデル、ヘアメイク、会場までを約1000名の学生がつくり上げるBUNKA伝統の文化祭ファッションショー。拍手が鳴りやまないほどの感動を、学生はもちろん、その場にいた教職員、来場者と共有しました。

## 文化祭Ⅱ部ファッションショー「spot“ ”」

有志学生によるⅡ部ファッションショーは、「spot“ ”」をテーマに企画・構成されました。観客席にヘッドライトを装着。顔を向けたその先に服が見えるという仕掛けにより、SNSがもたらした画面越しに物事を見る習慣を振り返り、自分の目で見ることの感動を伝えたいという思いが込められたショーとなりました。

REVE動画 ▼

spot“ ”動画 ▼

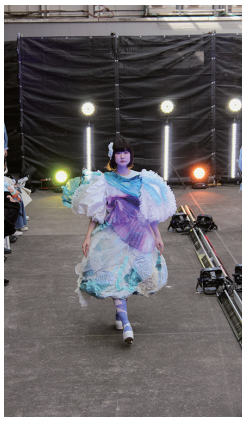
## 卒業制作ファッションショー

コロナ禍での授業体制の中でも技術と知識を身につけた学生たちが、その学びの集大成を披露する卒業制作ショーも無事に開催されました。

今回もファッション高度専門士科はロレアルプロフェッショナルチームとのコラボレーションを実施。卒業制作ショー「RHAPSODY」は、学生ごとの世界観がいかんなく発揮されました。また2022年度よりスタートした「エプソンとつくる、デジタルで創造するファッション」プロジェクトに参加した3名の同科学生は、エプソンのデジタル捺染プリンターなどの複数機器やカラーマネージメントのソリューション他を使用したオリジナルデザインの生地を作品に活用。イメージどおりの色柄がプライベートコレクション（通称マイコレ）を盛り上げました。

また、ファッション流通専攻科の学生による卒業制作ファッションショー「NOWHERE ～ CONTINUE MY ROAD ～」は、新宿ミロード屋上広場にて行われました。再開発に伴いモザイク通りや施設内店舗が順次閉鎖されていくことを、自分たちの卒業制作も含めて次のステップと位置づけ、「最高のラストスパートに！」との思いで実現させ、数多くの方と思い出を分かち合いました。

2022年度卒業制作ショー動画 ▶



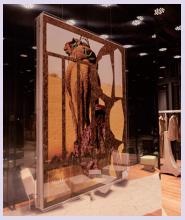
上段はファッション高度専門士科の卒業制作ショー「RHAPSODY」、下段はファッション流通専攻科の卒業制作ショー「NOWHERE ～CONTINUE MY ROAD ～」より

## 海外ブランドとの取り組みが活発に！

コロナ禍の落ち着きに合わせ、海外デザイナーの来日やイベントが活発になりました。日本の学生との取り組みを望むクリエーターも多く、たくさんの方が文化服装学院を訪れています。ここでは、海外ブランドとの取り組みの一部をご紹介します。 ※学生の在籍科・学年は受賞時となります。

### MAX MARA

「マックスマーラ “CAMELUXE” アップサイクル プロジェクト」の一環で、“創造的な再利用”、”伝統と革新の融合“をキーワードとしたアート作品を競うコンテストを開催。サステナビリティ賞をガン コウウさん（ファッション高度専門士科3年）、ファッション賞を森田悌如さん（Ⅱ部服装科2年）が受賞しました。



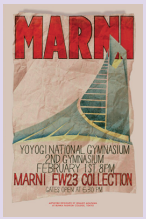
左がガン コウウさん、
右は森田悌如さんの作品

### MARC JACOBS

マークジェイコブスと文化服装学院がパートナーシップを組み、アイコンバッグ「THE TOTE BAG」を題材にしたコンペティションを実施。イラスト審査を通過した16名が実物制作に。アートディレクターによる審査を経て、各賞が決定しました。

優勝（左）　雛森優民さん（アパレルデザイン科3年）
2位（中）　セティアワン ヴィキ ロベリさん（服飾専攻科 デザイン専攻）
3位（右）　山岡寛泳さん（Ⅱ部服装科2年）

### MARNI




マルニ日本初開催のファッションショー招待状デザインを、学院生限定で公募。服飾研究科の学生作品が採用され、招待客に配布されました。また同ブランドのクリエイティブ・ディレクターフランチェスコ・リッソ氏の特別講義も開催。

### ETRO

エトロのクリエイティブ・ディレクターに就任したマルコ・デ・ヴィンチェンツォ氏が、日本の服飾学生と対話したいと実現した特別講義。同氏を密着取材した『GQ JAPAN』5月号（4月1日発売号）でも、特別講義の様子が紹介されました。

YouTube
文化服装学院公式 チャンネル

# Contests

**夢への一歩。**
**国内外のコンテストで相次ぐ受賞！**

※学生の在籍科・学年は受賞時となります。

## 文化服装学院ファッションコンテスト 2022

文化服装学院公式ウェブサイト ▶

### [デザイン部門]

メンズ、レディスを問わず、次世代を担うデザイナーを発掘することを目的とし、創造性、革新性、完成度を基準として審査される同部門。文化服装学院、文化ファッション大学院大学、通信教育受講生、連鎖校の在学生であり、応募者本人が実物制作可能な技術を有することが応募資格です。デザイン画による応募総数1956点のうち、1次審査を通過したのは21点。2022年12月8日（木）のショー形式による最終審査会で受賞者が決定しました。残念ながらデザイン大賞は逃したものの、そのほかの4賞は学院生が独占。2023年度への期待が高まる結果となりました。

A.【優秀賞】ゴ ヨウソさん（ファッション高度専門士科4年）
B.【秀作賞】窪田 里咲さん（ファッション高度専門士科4年）
C.【佳作】山口 空叶夢さん（アパレルデザイン科3年）
D.【佳作】菊池 泰賀さん（アパレルデザイン科3年）

### [技術部門トワリスト]

文化服装学院の在学生であることが条件で、技術とクリエーションを競うコンテスト。課題デザイン画を基に、バックスタイルは自由に制作できるのが同部門の特徴であり、トワリストとしての腕の見せどころの一つとなっています。2022年12月6日（火）の公開審査会にエントリーしたのは25名。360度、どこから見ても、特に美しいと評価された作品がトワリスト賞を受賞しました。

A.【トワリスト大賞】内藤 日菜子さん（服飾専攻科 技術専攻）
B.【佳作】コウ ウツジュンさん（服飾専攻科 技術専攻）
C.【佳作】三賀森 萌海さん（アパレル技術科3年）

### [服飾工芸部門]

バッグ、シューズ、帽子、アクセサリー、テキスタイル各分野の優秀なデザイナーを発掘することを目的としており、創造性、革新性、機能性、完成度を基準とし審査される部門。応募総数231枚の中から、1次審査を通過した10名が12月7日（水）の最終審査会に進出。爬虫類への並々ならぬ愛をテキスタイルで表現した作品が服飾工芸大賞に選ばれました。

A.【服飾工芸大賞】新倉 康平さん（ファッションテキスタイル科3年）
B.【佳作】シュ バイギさん（ファッション高度専門士科4年）
C.【佳作】ローレンリム ソフィさん（バッグデザイン科2年）

## Next Fashion Designer of Tokyo

東京都が学生を対象として新設したファッションコンクール「Next Fashion Designer of Tokyo」は、当初、特別審査員を山本耀司さんが務めることでも話題に。応募総数700点以上の中から審査を通過した計14点がショー形式の審査会に参加し、フリー部門 東京都知事賞・大賞を高山光さん（Ⅱ部服装科3年）が見事受賞しました。

第96回装苑賞でも、審査員特別賞を射止めた高山さん。今後の活躍が期待されます。

Next Fashion Designer of Tokyo公式サイト ▶

## YKKファスニングアワード

服づくりに欠かせない副資材と呼ばれるファスナーやバックル、スナップ、ボタンの可能性を探る「YKKファスニングアワード」のファッショングッズ部門において、テイ シンフさん（ファッショングッズ専攻科、写真左）が2年連続のグランプリ受賞という快挙を成し遂げました。過去最多の8582点（アパレル部門7251点、ファッショングッズ部門1331点）から選出されたことにうれしさは倍増したはず。また同部門の優秀賞をリ チャンヒさん（バッグデザイン科2年、写真右）が獲得。ファッション工芸専門課程の快進撃ともいえる結果となりました。

YKKファスニングアワード特設サイト ▶

## FBアワードY2023

ファッションビジネス学会が学生の育成支援を目的として昨年よりスタートしたファッションビジネス企画コンテスト「FBアワードY2023」において、文化服装学院のチームが見事２連覇を果たしました。

テーマ「今、提案したいファッションビジネス」に対し、エントリー総数435名。服飾系大学を含む1次審査を通過した10チームの中から、グランプリを受賞したのはファッション流通高度専門士科2年の小瀬こいきさん、山城心優さん、内出希実さんのチーム「4Key's」。古民家を利用した古着と古本の販売や、余剰野菜や花で作ったドライフラワーカーによる移動販売など、社会が直面している大量廃棄問題への目標の具体性が評価のポイントに。テーマの分析力と独創性、実現可能性、持続可能性、プレゼンテーション表現力が審査基準となる同コンテスト。ファッションに軸を置きつつ、あらゆる社会問題に関心を持ち、改善しようとする学院生のポテンシャルの高さが証明されました。

FBアワードY2023 ▶

## 装苑賞

新人デザイナー発掘の先駆けとして、歴史と実績を誇る装苑賞の公開審査が、6月27日（火）に開催されました。ポートフォリオ審査で32組が選出された後、対談形式の2次審査を通過した16組が、ランウェイにて各3体のミニコレクションを発表する形で、その様子はYouTubeでもライブ配信されました。

装苑賞は逃したものの、佳作1位を田口裕大さん（アパレルデザイン科3年）、佳作2位に鈴木昌朗さん（アパレルデザイン科3年）が輝きました。同科・学年という仲間同士で切磋琢磨し、次につながる結果を残しました。

▲ 装苑賞特設サイト

▲ 第97回装苑賞公開審査会

佳作1位の田口さんは、「Sculpture ～彫刻的服造り～」がテーマ。人は常に自分の命（時間）を削り、削られ生きていることを可視化するように、フェイクファーとライトモデリングペーストを使い、削りながら形づくった作品。

「デニムと皮膚の親和性」をテーマにしたのは、佳作2位となった鈴木さん。生まれてから死ぬまで、ほぼすべての時間を服と過ごす中で、特別なつながりができると考えた作品。皮膚の衰えとデニム特有の経年変化をデザインに反映した。

# インフォメーション

Information

## 会計報告

**2022年度はすみれ会総会が中止となりました。そのため会計報告は監査委員による監査を経て役員に報告がなされ、承認されました。2023年度予算案とともにここに掲載し、会員の皆さまにご報告いたします。**

2022年度　収支報告

期間：2022年4月1日～ 2023年3月31日

収入　（円）

| 項目 | 予算 | 決算 |
|---|---|---|
| 会費収入 | 14,160,000 | 13,427,000 |
| 事業収入 | ー | 231,400 |
| 雑収入 | | 764 |
| 寄付金収入 | | 30,340 |
| 収入合計 | 14,160,000 | 13,689,504 |

支出　（円）

| 項目 | 予算 | 決算 |
|---|---|---|
| 会員証発行費 | 300,000 | 0 |
| 会報発行費 | 2,500,000 | 1,987,420 |
| 事業支出費 | 2,500,000 | 62,172 |
| 事務運営費 | 500,000 | 763,920 |
| 会議費 | 280,000 | 75,000 |
| 100周年寄付 | ー | 20,000,000 |
| 出張交通費 | 50,000 | 0 |
| 報酬 | ー | 1,214,112 |
| 慶弔費 | 200,000 | 122,050 |
| 奨学金 | 2,100,000 | 1,750,000 |
| 会費返金 | ー | 305,000 |
| 雑費 | 5,000 | 1,430 |
| 予備費 | 5,725,000 | 0 |
| 支出合計 | 14,160,000 | 26,281,104 |
| 前期迄繰越剰余金 | | 96,591,452 |
| 当期剰余金 | | -12,591,600 |
| 次期繰越金 | | 83,999,852 |

2023年度　予算案

期間：2023年4月1日～ 2024年3月31日

収入　（円）

| 項目 | 予算 |
|---|---|
| 会費収入 | 12,510,000 |
| 事業収入 | 0 |
| 合計 | 12,510,000 ※1 |

支出　（円）

| 項目 | 予算 |
|---|---|
| 会員証発行費 | 300,000 |
| 会報発行費 | 2,500,000 |
| 事業支出費 | 15,000,000 ※2 |
| 事務運営費 | 500,000 |
| 会議費 | 280,000 |
| 出張交通費 | 50,000 |
| 慶弔費 | 200,000 |
| 雑費 | 5,000 |
| 奨学金 | 2,100,000 |
| | 1,500,000 |
| 予備費 | 500,000 |
| 合計 | 22,935,000 ※1 |

※1 収支差額（-10,425,000円）は前期迄繰越剰余金より支出

※2 100周年記念レセプション関連費用含む

## 会員手続きについて

永久会員への更新、会員証の再発行、氏名・住所等の変更手続きは、文化服装学院すみれ会ウェブサイト、または文化服装学院事務局窓口にて承ります。

**文化服装学院すみれ会ウェブサイト**

https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp

**▶永久会員／会員証再発行／氏名・住所変更の手続き方法**

①『会員特典・手続き』→『会員手続き』申し込みフォームに必要事項をご記入ください。
②永久会員への切り替え、会員証再発行の場合は、お申込み時に記載いただいたメールアドレス宛てに、会員証発行費のお支払先をご案内いたします。
③会員証発行費のお支払いが確認でき次第、ご登録の住所に会員証を郵送いたします。

**▶すみれ会Web会員登録のお願い**

Web会員へは無料でご登録いただけます。Web会員の皆さまには、ご登録いただいたメールアドレス宛てに同窓会や文化祭などのイベント情報をお届けいたします。現在会員の皆さまも、ぜひWeb会員へご登録をお願いいたします。なお、Web会員のみでのご登録の場合は、会員特典が限定されますことをご了承ください。

**▶Web会員登録方法**

『会員特典・手続き』→『会員手続き』申込フォームの「Web会員申込み」にチェックを入れて必要事項をご記入ください。

**▶会員手続き、会員特典に関する問合せ先**

文化服装学院すみれ会事務局
〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1　TEL：03-3299-2073

## すみれ会会員特典

すみれ会では、会員特典をご用意しております。ご利用にあたっては「すみれ会会員証」をご提示ください。※特典情報は随時更新しております。最新情報はホームページでご覧ください。

**特典① すみれ会報、ご案内の発送**

同窓会誌「すみれ会報」を年に1回、お送りいたします。

**特典② 文化学園施設利用**

**文化学園図書館**

ファッションに関する書籍、雑誌の所蔵では日本一ともいわれる文化学園図書館。稀覯本から、トレンド予測情報誌、デザイナー作品集、雑誌ほかその数33万冊以上。開館スケジュールについては、文化学園図書館ホームページ掲載の「図書館カレンダー（卒業生用）」をご確認ください。
https://lib.bunka.ac.jp/
TEL：03-3299-2395

**文化学園服飾博物館**

「"衣"を通して日本と世界の文化を知る」をテーマとして、年4回程度の企画展を開催。世界各地から収集された貴重な衣服や染織品、デザイナーの作品などによる展覧会が、無料にて鑑賞いただけます。
https://museum.bunka.ac.jp/
TEL：03-3299-2387

**文化学園ファッションリソースセンター**

布地に関する実物資料と情報を提供するテキスタイル資料室、コレクション動画やアカデミー賞受賞作品をはじめとする2400本以上の映像を所蔵している映像資料室がご利用いただけます。
https://www.bunka.ac.jp/frc/

**特典③ 文化学園事業利用の優待**

**文化購買事業部**

GAKUEN SHOP 表生地・手芸用品コーナー・書籍コーナーの商品を10％OFFでご購入いただけます。※一部対象外がございます。
https://shop.bunka.ac.jp/
TEL：03-3299-2034

**文化出版局**

雑誌『装苑』『ミセスのスタイルブック』の定期購買を10%OFFにてお申込みいただけます。下記ホームページまたはお電話よりお申込みください。
▼特別割引購読の申込
（株）富士山マガジンサービス
https://www.fujisan.co.jp/campaign/bunka/
フリーダイヤル：0120-223-223
オペレーターに「クーポンコード：sumire2023」をお伝えください。
※クーポンコードの提示がないと特別割引は適用されません。

**文化服装学院生涯学習**

文化服装学院の充実した施設と設備を利用しながら学べる、90以上のオープンカレッジと通信教育講座。ブラッシュアップにも役立つBUNKAファッション・オープンカレッジの入会金を、半額にてお申込みいただけます。
https://lifelong.bunka-fc.ac.jp/
TEL：03-3299-2233

**文化軽井沢山荘**

文化学園関係者のみを対象とする山荘（研修所）としてリスタートしました。晴れた日には浅間山を一望でき、軽井沢・プリンスショッピングプラザにも近い好立地で、ご利用しやすい宿泊費も魅力。有意義な時間をお過ごしください。
〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町レイクニュータウン
https://www.bunkakaruizawasansou.com/
TEL：0267-48-1525

**特典④ 協力企業によるサービス**

**日本旅行**

日本旅行の全国支店店頭にて申し込みされると、パッケージツアーを5％OFFにてご利用いただけます。窓口にて、すみれ会会員証をご提示ください。
（Web、電話でのお申込みは対象外）

国内：赤い風船
海外：マッハ、ベスト
※他社企画、Webコレクション等、上記ブランド以外は対象外です。
※旧日本旅行OMCトラベルは除外となります。
※本人とそのご家族が対象です。
※その他各種割引との重複利用はできません。

**会員特典にご協力いただける企業、お店を募集しています。**

会員証の提示で割引が可能になる、特典をつけてくださるなど、
卒業生の皆さまのご好意をお待ちしております。

問合せ先：すみれ会事務局　TEL：03-3299-2073

# 文化学園服飾博物館 展覧会のお知らせ

1.洋式上衣、陣股引（江戸時代末期～明治時代初め）
2.昭憲皇太后着用の大礼服（明治20年代末）
3.ドレス（昭和時代初期）
4. 高田賢三 第8回「装苑賞」受賞作品（昭和35年）

## 「日本の洋装化と文化学園のあゆみ」

明治期からの日本の洋装の歴史を、100年にわたる文化学園の服装教育のあゆみとともに振り返る展覧会が開催中です。

近代国家設立を目指してヨーロッパの法体系や生活様式を導入し、その一環として宮廷服に取り入れられたことをきっかけとして、時代を追うごとに日本人の生活に定着してきた洋装。本展では、主に明治期から戦後までの洋装化の流れを展観するとともに、大正12年（1923年）の創立以来、日本の服飾教育の中心を担い、人材育成に大きな役割を果たしてきた文化学園の服飾教育のあゆみを振り返るもの。

また、関連イベントとして、事前申込不要のオンライン講演会も予定されていますので、ぜひご参加ください。

会期：開催中～ 11月13日（月）
開館時間：10時～ 16時半
（入館は閉館の30分前まで。10月13日、10月27日は19時まで開館）
休館日：日曜・祝日（11月3日は開館、11月6日と7日は閉館）
入館料：一般500円、大学・専門学校生・高校生300円、小・中学生200円
※すみれ会員の方は会員証のご提示により無料でご覧いただけます。

〒151-8529
東京都渋谷区代々木3-22-7　新宿クイントビル TEL：03-3299-2387

### 関連イベント オンライン講演会

開催日時：10月14日（土）13時～ 15時50分
講師：朝日 真（文化服装学院 教授）、
　　菅野ももこ（文化学園服飾博物館 学芸員）、
　　学芸員・吉村紅花（文化ファッション研究機構）
※Zoomによるオンライン開催となります。
　詳細（講演内容、ミーティングID、パスコード含）はホームページでご確認ください。

# 文化服装学院 教員採用情報

**文化服装学院では、未来のファッション業界を担う人材を育成する教員を募集しています。授業や学校生活をはじめ、学生を全面的にバックアップするクラス担任制が特徴で、学生とともに歩み、喜び、成長できる職場です。**

**[募集概要]**
常勤助手
■募集人数：若干名
■応募方法
まずはメールでお問い合わせください。折り返し詳細をご連絡いたします。
■問合せ先
文化服装学院 事務局 教務部 教務一課 髙久／伊賀
TEL：03-3299-2250 ／ 2205
メールアドレス gakuin-saiyou@bunka.ac.jp

※休校日や夏季・冬季休暇中はお問い合わせに返信できかねます。ご了承ください。
※応募資格に該当しない方は担当までお問い合わせください。
※応募書類提出は郵送必着
※配属先については本学院にて決定

不要になった書籍・CD・DVD・ゲームソフトを指定の古本業者に送付すると、その売却代金が文化学園への寄付金となる取り組みです。創立100周年を迎えた文化学園のさらなる教育・研究の充実のために、ぜひご協力をお願いいたします。詳細は右のQRコードから専用ホームページをご覧ください。

## 役員紹介

すみれ会会長
佐藤繊維株式会社
代表取締役
**佐藤 正樹** 氏

すみれ会名誉会長
文化服装学院　学院長
**相原 幸子** 氏

すみれ会副会長
株式会社オールファッションアート
研究所　代表取締役
**松本 ルキ** 氏

すみれ会副会長
株式会社ヒロココシノ
代表取締役副社長
**小篠 ゆま**　氏

POTESALA主宰
スタイリスト、衣装デザイナー
**飯嶋 久美子** 氏

すみれ会副会長
文化学園理事兼
文化服装学院 学院長補佐
**門井 緑** 氏

スーパーバイザー
株式会社サーヴォ
グレーダー
**花里 裕** 氏


SUMIRE KAI 2023 | NO 63

第63号(2023年号)　2023年10月1日発行
発行人＝佐藤正樹
編集者＝すみれ会広報活動専門委員会
発行所＝文化服装学院すみれ会
〒151-8522　東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL:03-3299-2073
Art Direction & Design：中井 拓(QUEEL DESIGN)
アパレルマーチャンダイジング科卒業

SUMIRE KAI